



福蕙屏筆

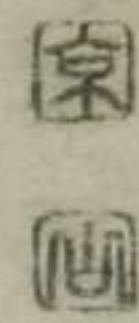


興

江戸馬喰町三白永壽堂西村久八書



臨八十六峯深川松和先生書



○小引

あまのあまの筆をさすの草紙の名はくろて  
赤保衛門の筆をさすの草紙の名はくろて  
此香の名をとるゆゑに方福長者の一世の  
栄花の起成ありは言隻辞も愁  
歎の詞をひひききとてさるるこころめ  
夏のと載記せしるゆゑに自おしこあつて  
咲くと催をこころめする希に初まの詠を  
天の山とこころめ笑ひあはれとまらるる

山東京傳試筆



2/3

特  
2946  
213





儂人臺求乾坤異  
 有石益年日月長

字浦島外上經 烟

月  
 見と  
 一万枝と  
 御代の雲 宝井其角



壽香櫃  
 郁金炉  
 内福  
 燭焮煌  
 寄殿前  
 石  
 東方朔句  
 殿 署

新神小  
 杉の口  
 小龍  
 宝晋奇



福令取

○ 壽平妻於福



○ 黄翁村福屋寿平

七の夢や  
ひさかたあり  
子母よき有



十歳妻の因縁表  
妻と占め善通  
美田福

日の香気  
あやしくなる昔子



万福長者子  
亮示太郎

心なき徳行空六万兩





















福祿壽三星の御守り



福祿壽三星の御守り

めでたし





































